観光業の大学・専門学校

観光は、国の成長戦略の重要な柱の一つとして位置付けられ、「観光立国」から「観光先進国」へとさらに高みを目指している。そのカギを握るのは、何よりも観光に携わる人材だ。ここでは、明日の観光人材を輩出する観光関連の大学や専門学校を紹介する。

地域創生にアプローチ　大正大学

大正大学（東京都豊島区、大塚伸夫学長）は1926（大正15）年、旧大学令によって全国で21番目に誕生した伝統ある大学だ。仏教系大学として有名だが、いまでは6学部11学科を持つ総合大学としての地位を築いている。

2016年4月に創設された「地域創生学部・地域創生学科」は国が進める地域創生を学問的視点でアプローチ、探究するユニークな学部・学科で、日本の未来を築く「地域人」の育成を目指す。

集中型学習を行い、長期間の学外実習を行うカリキュラムとのマッチングを高めるため、1年間を4学期に区分するクォーター制を導入（他学部は1年間を2学期に区分するセメスター制）している。入学定員は100人。学位は学士（経済学）となる。

一番の特色は「地域実習」。地域の生活や文化を実際に経験し、4年間かけて一つの地域の課題の把握や解決策の提案と実践を行う。目指すのは知識と実践、理論と行動の融合。

徳島県阿南市での地域実習

1～3年次の実習期間は計168日間に及ぶ。長期間の実習を行うのは、学生が地域に溶け込んで、地域の人々と一緒になってさまざまな問題の解決策を考えることを重視するためだ。

「地域実習実施自治体」は、北は宮城県南三陸町から南は鹿児島県奄美市まで、現在その数12に及ぶ。このほか、包括協定締結自治体や連携団体などがあり、ネットワークは拡大の一途をたどっている。

大正大学日本版DMO特別セミナーの様子

2020年に初の卒業生が出ることになるが、進路としては、①観光による地域づくりの事業者としてビジネスモデルを構築する②地域資源を活用した新事業の創出や起業への挑戦③地方公務員としてまちの活性化や戦略の実現を目指す―などが考えられる。

◇

地域創生学部と密接な関係にあるのが2014年4月に設立された「地域構想研究所（清成忠雄所長）」。地域創生学部の教育研究を全面的に支援することによって、地域を志向し、地域を支え、活力ある社会を創生していく人材を育成する。

研究所は五つのプロジェクトに取り組んでいるが、その一つが「観光による地域づくり」。観光地域づくりの先進事例を研究するとともに、行政間、官民、業種等の壁を乗り越え、観光交流の促進を目指すプラットフォーム（日本版DMO）の構築、そして新たな視点で地域資源（自然、歴史、文化、習俗などを含む）を活用した、豊かで質の高い観光による地域づくりの推進のためにノウハウを学ぶセミナーと各地の要望に応える形での事業で構成されている。

2018年度は、DMOセミナーやDMO現地セミナー、全国観光圏推進協議会、観光地域づくりマネージャーレベルアップ研修などを行う。

JR東日本、JTBで要職を歴任し、日本版DMOの第一人者である清水慎一・研究所教授は「地域創生で大切なのは志高く実行力のあるリーダーと、その思いを継続と説く。

また、研究所は地域創生のための総合情報誌「地域人」を毎月発行。「地域の活性化にがんばる高校」（第14号）、「温泉地を蘇らせる！」（第31号）など、地域創生のヒントとなる特集は読みごたえがある。

産学官連携で観光教育　東洋大学

東洋大学は昨年4月に「国際観光学部」を開設。既存の国際地域学部国際観光学科を発展的に改組した。

東洋大学の観光教育の歴史は日本で最も古い。1963年、東洋大学短期大学に観光学科を創設。2001年に4年制の学科として、国際地域学部国際観光学科へと展開してきた。50余年の歴史を経て、学部に昇格した。

訪日外国人旅行客の急増など日本の観光市場は国際化が進んでいる。国際観光学部では、産業と政策の両分野で即戦力となる実務能力を身に付け、観光立国・日本に貢献できる人材を育成する。

国際観光学部の就学キャンパスは同大が本部を置く、東京都文京区の白山キャンパス。入学定員は366人。

観光庁受託事業の社会人向け教育プログラム

教育プログラムは2分野・5コースで構成。観光産業分野に「ツーリズムコース」「エグゼクティブマネジメントコース」「サービスコミュニケーションコース」「観光プロフェッショナルコース」の4コースを、観光政策分野に「観光政策コース」を設置している。

ツーリズムコースは大手旅行会社、エグゼクティブマネジメントコースはホテルやブライダルのマネジメント職、サービスコミュニケーションコースは航空会社やホスピタリティ産業への就職を想定。働きながら観光学全般を視野に学びを深める観光プロフェッショナルコースでは、午後3時ごろから大学で学べる環境を用意している。観光政策コースは観光行政・DMOを目指す。

森下教授

今年は大学院国際観光学研究科国際観光学専攻に博士前期課程・博士後期課程を開設。研究分野の充実も見逃せない。

◇

東洋大学は、社会人教育にも力を入れている。観光庁が実施する「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」には、昨年度に引き続き今年度も継続採択された。「ホスピタリティ産業における女性活躍と組織づくり講座」と題し、観光・ホスピタリティ産業で、総支配人や若女将などのマネジャー層や経営層を目指す女性や、女性の活躍の場を広げたいと考える企業の経営層、ホスピタリティ産業の関係者をターゲットとした講座を今年度も実施する。

国際観光学科長の森下晶美教授に同事業の概要、昨年度の実施状況などを聞いた。

――事業の概要は。

「観光庁が観光産業の中核を担う人材の育成・強化を目的に、社会人向け教育プログラムを実施する事業者を公募。東洋大学が6校のうちの1校として採択された。昨年10月から今年1月にかけて国際観光学部教員と観光・ホスピタリティ産業の各分野で活躍する実務講師による産学連携の講座を計13回開講した。講義やワークショップ、シンポジウムを通じて、日本の観光・ホスピタリティ産業における女性活躍の現状への理解を深め、女性が活躍できる組織づくりについて議論した」

――宿泊業で働く女性を対象とした講座なのか。

「昨年度の受講者数は21人。内訳は、ほぼ男女半々だった。年齢層は30代半ばから50代くらい。都心のホテルのマネージャークラスが多かったが、山陰地方から通ってくれた旅館の若女将もいた。女性が活躍し得る組織を構築し、さらなる成長を模索するための講座なので、旅行業や男性も対象となっている」

――女性活躍に焦点をあてた理由は。

「少子化が急速に進展している中で、働き手の急減を埋めるために多様な人材の積極的な活用が求められている。ところが女性の登用は遅れているのが現状だ。特に観光・ホスピタリティ産業では、労働者のうち女性が占める割合が多い一方で、管理職に就く割合は極めて低い。見方を変えれば、女性の管理職への登用の余地は大きい。食と住に深く関係するホスピタリティ産業では、女性の感性を取り入れることは重要だ」

――カリキュラムの概要は。

「マーケティング、組織論から始め、旅行業界、葬祭業界、ブライダル業界、外資系ホテル、欧米先進国における女性活躍のケーススタディ、女性活躍が著しい先進的旅館での1泊2日研修、修了証授与式を兼ねたシンポジウムなどを行った」

――受講費用は。

「観光庁からの受託事業なので、基本的に受講者の負担はない。旅館研修のみ実費を負担していただいた」

――本年度の受講者募集を7月から始める。東洋大学が本事業に注力する理由は。

「本学創立者である井上円了先生の建学の精神の一つが『開かれた大学』。産官学連携活動として、広く社会人向け講座を積極的に開講してきた。また102年前に日本の私立大学として初めて女子の入学を許可するなど、男女共同参画についても伝統的に取り組んできている学校だ」

「国際観光学部は、国際地域学部国際観光学科の時代から『理論と実践』の融合をミッションに掲げてきた。そのため、実業界出身の教員数が多いのも特徴だ。国際観光学部では、観光・ホスピタリティ産業界にこれから入る人材を育成しているわけだが、本事業では、現在業界に従事する人たちを将来の観光の中核を担う人材へと育成する。観光産業を日本の基幹産業の一つと位置付け、将来さらに高いレベルの観光立国を目指すために、本学、本学部も産官学連携活動で積極的に貢献していきたい」

東京で学ぶ。
地域の魅力を
つくれる人になる。

大正大学
大正大学 地域創生学部　心理社会学部　人間学部　文学部　表現学部　仏教学部
スガモで育む日本の未来。
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1　TEL:03-3918-7311（代表）

大正大学 地域構想研究所
学術的な英知を集め、現代の日本における地域創生・地域課題解決を使命とします。

大正大学の地域創生ネットワーク
――全国61地域の自治体と連携

東洋大学
TOYO UNIVERSITY

国際観光学部

新しい観光をつくる、夢を叶える。

1963年、当時の短期大学に日本初となる観光学科を創設。2001年に4年制の「国際地域学部 国際観光学科」となり、50年以上にわたって培われた東洋大学の観光教育。この伝統と実績を基盤として2017年4月、『国際観光学部 国際観光学科』を開設しました。東洋大学の観光の学びが新たなステージへ。

〒112-8606　東京都文京区白山 5-28-20　TEL:03-3945-7571（広報課）　東洋大学　検索

観光庁 産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業 採択

東洋大学 国際観光学部
社会人向け教育プログラム

ホスピタリティ産業における女性活躍と組織づくり講座
講義、ワークショップ、施設見学を通じて女性が活躍できる組織づくりを考えます

食と住に深く関係し、女性の感性を取り入れることが重要なホスピタリティ産業。労働者のうち女性が占める割合が高い一方で、管理職に就く割合がきわめて低くなっています。見方を変えると、女性の管理職への登用における余地が大きい産業ともいえます。本講座では、講義、ワークショップ、施設見学を通じて女性が活躍しうる組織づくりについて論議します。

◆2018年度 講座案内

対象者：ホスピタリティ産業および観光産業に現在従事されているマネージャー層、経営者層、またはマネージャー層を目指す方
開講期間：2018年10月13日(土)～2019年1月26日(土)【全12回予定】(10/13 開講式、1/26 シンポジウム・修了式) ※平日の18:30～21:00 全10回開講 ※1月に集中講義・学外研修2回
受講場所：東洋大学 白山キャンパス（東京都文京区白山 5-28-20）都営地下鉄三田線「白山」駅 A3 出口から「正門」徒歩5分 東京メトロ南北線「本駒込」駅 1 番出口から「正門」徒歩5分
実施主体：国土交通省観光庁
事業実施：東洋大学 観光産業の中核人材育成・強化事業カリキュラム検討委員会
受講要件：原則として、カリキュラムの全日程参加可能な方
募集定員：20名
受講料：無料 ※会場までの交通費、学外研修交通費、宿泊費は各自負担いただきます
申込方法：7月20日(金)より東洋大学公式 Web サイトにて カリキュラム概要のご案内、受付開始 https://www.toyo.ac.jp/site/ciit/kankojnzi0817.html

応募締切：2018年8月17日(金)

お問い合せ先　観光産業の中核人材育成・強化事業 事務局（産官学連携推進課 内）
メールアドレス：ml_kankojnzi@toyo.jp